

中国



1 農・畜産業の概況

中国は、日本の約 26 倍に当たる 960 万平方キロメートルの国土を有しており、そのうち 2008 年の耕地面積は前年比 0.02%減の 1 億 2,172 万ヘクタール(中国農業部「2009 年中国農業発展報告」による)であった。

表 1 耕地面積の推移

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
耕地面積(万ヘクタール)	12,244.4	12,206.7	12,177.6	12,173.5	12,171.6

資料:中国農業部「中国農業発展報告」

農林牧漁業の総産出額および部門別の生産額の推移を見ると、総産出額は 85 年から 95 年の 10 年間で大幅な増加を見たが、95 年以降は比較的緩やかな増加で推移している。

農林牧漁業の生産額の分野別構成比では、農産物は 80 年には全生産額の 75.6%であったが、2008 年には 53.9%と低下し、畜産物が 18.4%から 29.6%、水産物が 1.7%から 9.4%へと増加しており、国民所得向上による消費構造の変化がうかがえる。

2 畜産の動向

(1)酪農・乳業

中国の酪農は、古くは中国北部や西部居住の少数民族地域の遊牧民が、黄牛(東南アジアから中国北部にまで分布する黄褐色の牛の総称)やヤクの乳を利用して乳製品に加工する自給自足型の農業であったが、改革開放政策が実施された以降、急速に発展している。また、経済発展に伴う生活水準の向上による都市部を中心とした食生活の西洋化や、中央・地方政府などによる栄養価値に関する普及啓発などもあり、牛乳の消費も拡大している。国連食糧農業機関(FAO)によると、2008 年の中国の生乳生産量(牛のみ)は 4,140 万トンで世界第 3 位(全世界のシェア 6.0%)となっているものの、生産拡大に向けた乳牛の改良や飼養管理、衛

生管理、飼料確保、酪農家の集約化に加え、コールドチェーンほか流通体制の整備など、今後に向けての課題も多い。

①政策

国家評議会は 89 年、酪農・乳業を初めて国家経済の発展を推進するための重要な産業と位置付け、融資、技術、インフラ支援などの政策を確立した。さらに 97 年、国務院は「全国栄養改善計画」により酪農・乳業を重点的発展産業とするとともに、2000 年には、小・中学生(学制の違いにより、日本の小・中学生とは必ずしも一致しない)に対する飲用牛乳の摂取を促進し、その体位向上と牛乳・乳製品の消費拡大などに資するため、「学生飲用乳計画」を実施した。その後も、酪農・乳業企業を重要な発展企業として支援すること

が決定されるとともに、生乳生産基地の発展計画などが相次いで実施に移されている。



学生飲用乳の提供風景

(雲南省昆明市: 2時間目の休み時間)

なお、中国では学校給食の普及率が低いことに加え、その食習慣から、児童・生徒の多くは朝食を十分に摂取しておらず、午前10時ころになると多くの者に血糖値の低下が見

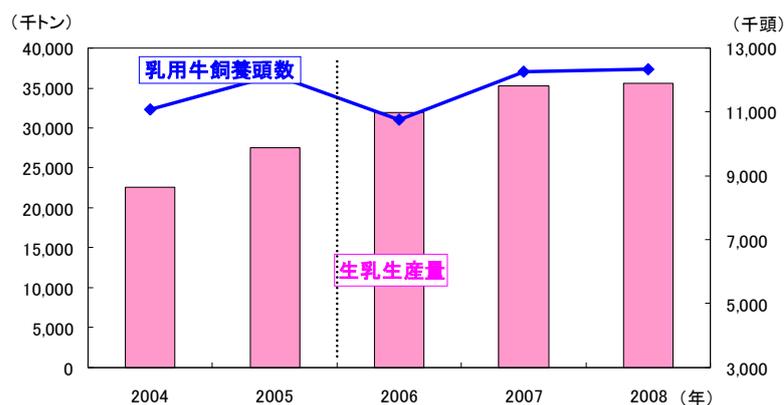
られる。このため、学校給食と学生飲用乳の提供は切り離して考えられ、牛乳が午前中に提供されている学校が多いとされている。

②生乳の生産動向

ア. 飼養頭数

乳用牛の飼養頭数は、近年一貫して増加傾向で推移しており、特に2003～2004年は前年比2割強～3割の増加と著しい伸びを示したが、2005年は同9.8%増と伸び率が鈍化した。第二次農業センサス(2006年12月末時点)実施の関係で、2005年以前と2006年以前のデータが連続しないため、中・長期的な乳用牛の飼養頭数の推移について単純に論ずることはできないが、2008年は同6.2%増の1,234万頭となった。

図1 乳牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料: 中国農業部「中国農業年鑑」

注: 第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

表 2 乳用牛飼養頭数の推移

	(単位:千頭)				
区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
乳用牛飼養頭数	11,080	12,161	10,762	12,259	12,335

資料:中国農業部「中国農業年鑑」

注:第二次全国農業センサス(2006 年末時点)の結果に基づき、2006 年のデータが大幅修正されたことから、2005 年以前と 2006 年以後の数値は連続しない。

中国の乳用牛は、一般に3分の2がホルスタイン種およびその交雑牛などで、3分の1程度がシンメンタール種、在来牛である黄牛タイプの三河牛種・草原紅牛種などの純粋種であるといわれている。これらのうち主要な乳用牛は、黄牛雌牛とホルスタイン雄牛の交雑種に、さらにホルスタイン雄牛を累進交配して作出された中国黒白花牛(Chinese Black and White)と呼ばれる品種で、中国では 85 年以降、ホルスタイン種の血統が 87.5%以上のもの(=ホルスタイン雄牛を三代以上交配したもの)を中国ホルスタインと呼んでいる。しかし、乳牛の改良や飼養管理技術などが先進国に比べてまだ遅れていることや、乳肉兼用種も飼養されていることなどから、乳牛の生産性はまだ低く、中国の1頭当たり

年平均生乳生産量は約 3,500~4,200 キログラムとされている。

イ. 生乳生産量

生乳生産量は、牛乳の栄養知識の普及などによる消費拡大に刺激され、98 年以降一貫して増加傾向で推移している。特に 2003~2005 年は前年比2割強~3割強の増加と伸びが著しく、2004 年の生乳生産量 2,261 万トンに対し、2008 年は同 0.9%増の 3,556 万トンと、わずか 5 年間で 1.5 倍以上となった。

表 3 牛乳需給の推移

	(単位:千トン)				
区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	22,606	27,534	31,934	35,252	35,558
輸入量	2	1	2	2	4
輸出量	31	33	38	45	38
消費量	22,577	27,502	31,898	35,209	35,524

資料:中国国家統計局「中国統計年鑑」

中国海関総署「中国海関統計年鑑」

注:輸入量、輸出量は製品重量ベース(HS0401.10 および 0401.20)

ウ. 地域別生産動向

生乳生産は、その多くが中国東北部から華北、西北部など主に北方地域で行われている。2008年の主産地の生乳生産量は、内蒙古自治区912万2千トン(全国シェア25.7%)、黒龍江省508万4千トン(同14.3%)、河北省504万5千トン(同14.2%)となっており、華北・東北地方に属する上位3省・自治区で54.2%と中国の生乳生産量の過半を占める。

このほか、河南省279万1千トン(同7.8%)、山東省230万5千トン(同6.5%)が主要生産地域であり、さらに天津市(69万8千トン)、北京市(66万4千トン)、上海市(23万3千トン)などの大・中都市郊外でも生産が行われ、生産規模や飼養管理水準の高さに加え、能力の高い輸入乳用牛の導入などもあり、近年急速な成長を見せている。



内蒙古・フフホト市郊外の放牧風景

③牛乳・乳製品の需給動向

ア. 消費動向

2008年の牛乳消費量(乳製品向けを含む)は、前年比0.9%増の3,552万トンとなった。近年の中国における牛乳・乳製品の消費量は、生活水準の向上に伴う食生活の多様化や牛乳・乳製品の栄養価値の普及、啓発などの消費拡大対策の奏功から、大都市における消費が大幅に増加している。

一方、中国国家统计局によると、2008年の都市部における1人当たり牛乳・乳製品消費量は、前年比8.6%減の22.72キログラムとなった。また、都市部における牛乳・乳製品消費量の伸びは、その主要品目である牛乳類(中国で鮮乳・純牛乳などと呼ばれているもので、日本の統計上は、

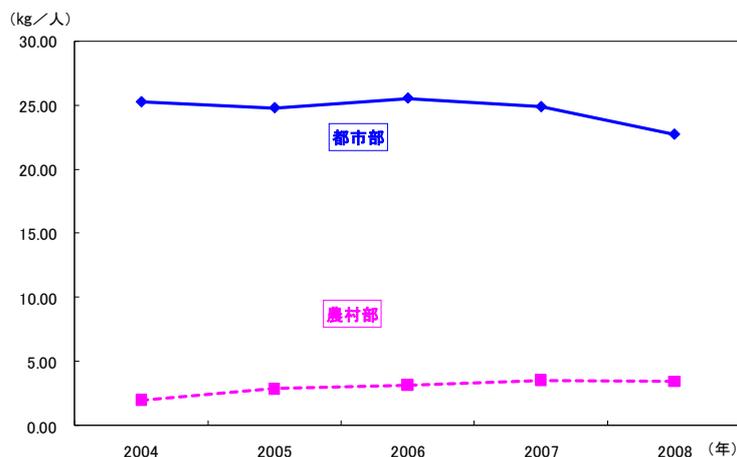
牛乳や加工乳、乳飲料など「飲用牛乳等」と分類されているもの)が、メラミン事件の影響などにより減少している(2008年の1人当たり消費量:前年比14.4%減の15.19キログラム)。

農村部における消費量についても、2008年の1人当たり牛乳・乳製品の消費量は、同2.6%減の3.43キログラムとなった。これは、5年前の2002年と比較すると2倍程度に増加しているものの、たんぱく源を食肉、卵、水産物に求め、牛乳・乳製品に対するなじみが薄いという食文化の伝統や所得面の理由などから、絶対量としては依然として少ないものとなっている。

(注: 中国の一人当たり消費量は、全消費量を総人口で除して算出しているのではなく、一定数の家庭を抽出したアンケート調査により算出されてい

ると言われている。)

図2 1人当たり牛乳・乳製品の消費量の推移



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

注: 都市部の数値は、ミルク・粉乳・ヨーグルトの数値をそれぞれ1:7:1のウェイトで生乳換算した合計値

表4 1人当たり牛乳・乳製品の消費量の推移

区分/年	(単位: Kg/人)				
	2004	2005	2006	2007	2008
都市部	25.25	24.79	25.54	24.87	22.72
農村部	1.98	2.86	3.15	3.52	3.43

資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

注: 都市部の数値は、ミルク・粉乳・ヨーグルトの数値をそれぞれ1:7:1のウェイトで生乳換算した合計値

イ. 乳製品需給

乳製品の生産は、かつては粉乳が主体であったが、近年はヨーグルトの生産・消費の伸びが著しい。しかし、乳幼児向けおよび中高齢者向けを中心に、粉乳が主要な乳製品の一つであることには変わりがなく、チーズ、バターを生産・消費はまだこれからという段階である。

2008年の粉乳の需給について見ると、全粉乳の生産量は前年比2.6%減の115万2千トン、消費量も同17.1%

減の95万4千トン、輸入量も同22.1%減の4万6千トンと減少した。全粉乳は、還元乳やヨーグルト、アイスクリーム、焼き菓子などの原料として用いられるが、2006年末以降、乳製品の国際価格が高水準で推移する一方で、中国国内の強い需要にけん引されて国内生産量が増加したことから、国内の全粉乳ユーザーは、国際相場よりも安価とされる国産品を使用する方向にシフトした。しかし、その後のメラミン事件などの影響で、生産、需要共に減少したと考えられる。

表 5 全粉乳需給の推移

	(単位:千トン)				
区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	832	918	1,030	1,150	1,120
輸入量	91	65	74	59	46
輸出量	25	32	33	72	62
消費量	898	951	1,071	1,137	954

資料:USDA「Dairy:World Markets and Trade」(2010年8月)

これに対し、脱脂粉乳は、2004～2005年にかけて中国各地で発生した粉乳の安全性をめぐるさまざまな事件(偽ブランドや劣悪な品質の粉乳による死亡・栄養障害、成分基準違反など)の影響により、生産量は減少傾向で推移してい

る。その後、品質管理体制の向上などにより、2008年の消費量は前年比13.8%増の10万7千トンと増加し、輸入量も同37.5%増の5万5千トンと増加に転じた。

表 6 脱脂粉乳需給の推移

	(単位:千トン)				
区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	68	60	55	58	53
輸入量	61	55	62	40	55
輸出量	2	0	1	4	1
消費量	127	115	116	94	107

資料:USDA「Dairy:World Markets and Trade」(2010年8月)

中国では、脱脂粉乳を溶いて飲む習慣は比較的新しいもので、大都市の年配者が健康上の理由で消費するのが主流であるといわれている。

品目別の輸入量と供給国についてみると、乳製品輸入量の約6割を占めるホエイ類については、米国産が4割、フランス産が2割、続いてオランダ、フィンランドの順となっている。ホエイ類に次いで輸入量の多い脱脂粉乳は、ニュージーランドが3割、米国が3割、豪州が3割となっている。また、全粉乳および部分脱脂粉乳はニュージーランドが7割を占め、残りは豪州となっている。

(2)肉牛・牛肉産業

中国の肉牛生産の歴史は新しく、90年代に入りそれまでの役畜の飼養から本格的な牛肉生産への取り組みが始められた。FAOによると、2009年の中国の牛肉生産量は615万5千トンで、米国(1754万1千トン)、ブラジル(836万4千トン)に次ぐ世界第3位であり、そのシェアは、全世界の17.6%を占めている。しかし、北京、四川、上海、広東の四大系統の中国料理において、その食材として牛肉が利用されることはあまりなく、食肉消費の中で牛肉は比較的低い水準にあった。また、従前は牛肉のほとんどが役用老廃牛

由来のものであったが、近年の肉牛改良に伴う肉質向上や所得の増加により、生産、消費とも増加している。しかし、牛肉の消費量は、世界的に見るといまだ比較的低い水準にある。

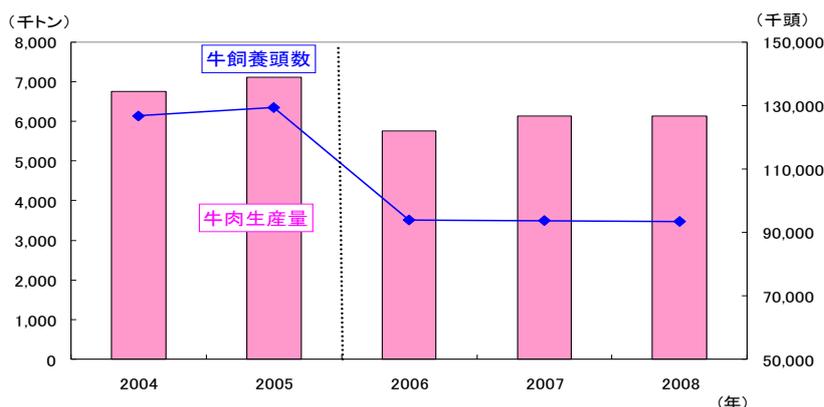
① 肉用牛の飼養動向

2008年の肉用牛の飼養頭数(乳牛を除き、水牛を含む)は、9,343万頭と前年を0.3%下回った。乳牛を含む牛全体(1億576万頭)のうち8千万頭弱が黄牛(水牛およびヤクを除く在来種)と呼ばれる役肉兼用型で、全体の約4分の3を占めている。純粋種が少なく交雑種がほとんどであるた

め、能力面での制約が大きく、枝肉重量も小さいのが現状である。黄牛のうち秦川牛、南陽牛、魯西牛、晋南牛が代表的な肉用品種とされており、これらは、主に中央平原地帯で飼養されている。

地域別では、伝統的な放牧地帯である西部地帯(内蒙古自治区、甘肅省、新疆ウイグル自治区、青海省、チベット自治区)に加え、中央平原地帯(河南省、河北省、山東省、安徽省など)、北東地帯(黒龍江省、吉林省、遼寧省)が主な飼養地帯となっている。

図3 牛飼養頭数と牛肉生産量の推移



資料: 中国農業部「中国農業年鑑」

注1: 牛飼養頭数は乳牛を除き、水牛を含む。

2: 第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

表7 牛飼養頭数の推移

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
牛飼養頭数	126,738	129,414	93,889	93,689	93,425

(単位: 千頭)

資料: 中国農業部「中国農業年鑑」

注1: 牛飼養頭数は乳牛を除き、水牛を含む。

2: 第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

なお、中国では野草地などの放牧地が不足しているため、過放牧による土壌流出などの環境問題も発生しており、牛飼養頭数の大幅な拡大を阻害する要因となっている。こうした背景もあり、中国では99年から、過剰な開墾で表土の流失が著しい傾斜耕地や砂漠化・アルカリ化などが深刻な地域の耕地を林地または草地に戻す「退耕還林政策」が実施されていたが、国務院は、耕地の予想以上の減少懸念などを背景に、2007年8月9日付け国務院通知をもって、第11次5カ年計画の期間(2006～2010年)内に実施予定の約133万ヘクタール規模の退耕還林について、2006年分として配置済みの約26万7千ヘクタールを除き、当面実施しないとした。

②牛肉の需給動向

2008年の牛肉生産量は、前年を0.3%下回る613万トンとなった。主要な生産地区の生産量を見ると、河南省84万1千トン(全国シェア13.7%)、山東省70万7千トン(同11.5%)、河北省56万8千トン(同9.3%)、内蒙古自治区43万1千トン(同7.0%)、吉林省40万トン(同6.5%)、遼寧省37万7千トン(同6.1%)、黒龍江省32万6千トン(同5.3%)、新疆ウイグル自治区32万4千トン(同5.3%)などとなっている。

表8 牛肉需給の推移

区分/年	(単位:千トン)				
	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	6,759	7,115	5,767	6,134	6,132
輸入量	10	3	3	8	8
輸出量	61	91	90	81	58
消費量	6,709	7,027	5,680	6,061	6,082

資料: 中国農業部「中国農業年鑑」、USDA「China, Livestock and Products」(2010年3月)

注: 第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年の生産量が大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の生産量および消費量は連続しない。

牛肉輸入量は、WTO加盟に伴う関税率の引き下げから、2002年には2万6千トンと前年を4割強上回った後、2004年以降は減少ないし横ばいとなったが、2008年は北京オリンピック開催を開催するなど好調な景気を背景に微増した。主な輸入先は豪州、ウルグアイ、ニュージーランドとなっており、輸入牛肉は、国産と比較して高品質なため、主に大都市の富裕層や高級ホテル向けなどに供給されている。

2008年の牛肉輸出量は、内需の拡大などから前年比28.4%減の5万8千トンと前年を下回った。主な輸出先は香港特別行政区、ヨルダン、クウェート、レバノン、アラブ首

長国連邦(UAE)、カタールなど中東諸国及び韓国であった。

③牛肉の価格動向

2008年の牛肉卸売価格は、著しい経済成長に伴う畜産物消費構造の変化や豚肉価格急騰などを背景とした牛肉消費の伸びなどに支えられ、前年比41.9%高の1キログラム当たり28.06元となった。しかし、中国国家统计局によると、1人当たりの消費量は、都市部で豚肉19.26キログラムに対し2.22キログラム、農村部で同じく12.65キログラムに対し0.56キログラムと、依然として低い水準にある。

表 9 牛肉価格の推移

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
牛肉卸売価格	15.11	16.10	16.46	19.77	28.06

(単位:元/kg)

資料:中国農業部「中国農業発展報告」(菜籃子産品卸売価格)

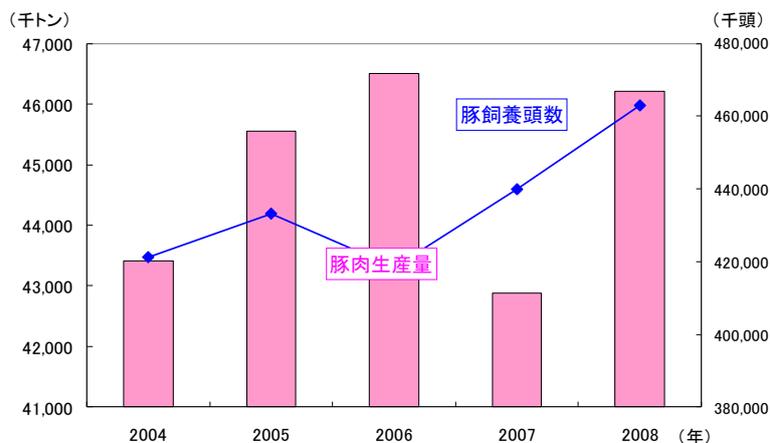
(3)養豚・豚肉産業

豚肉は、中国の食肉総生産量の3分の2を占めており、歴史的にも最も好まれている食肉である。FAOによると、2008年の中国の豚肉生産量は5,086万トンと世界第1位であり、そのシェアは、全世界の約5割を占めている。しかし、年間と畜頭数と飼養頭数との比は1.32で、近年その生産性は向上しているものの、依然として欧米水準(1.5以上)には達していない。また、国民の赤肉志向の高まりと生活水準の向上に伴い、脂肪の多い中国在来種と赤肉の多い外来種との交雑による肉質改善が取り組まれている。

①豚の飼養動向

2006年上半期に豚の価格が下落を続け、その損失軽減のため、養豚農家が母豚のと畜や子豚の安売りなどを行った影響から、2007年上半期に至って豚の飼養頭数および出荷頭数は減少した。また、豚の主産地で発生したPRRSなどにより母豚の流死産が多発し、豚の飼養頭数の減少に拍車を掛けたものの、2007年後半以降、飼養頭数は徐々に回復した。これにより、2008年の豚飼養頭数は、4億6,291万頭と前年を5.2%上回った。

図4 豚飼養頭数と豚肉生産量の推移



資料:中国農業部「中国農業年鑑」

注:第二次農業センサス(2006年末現在)の結果に基づき、2000年までさかのぼってデータが大幅修正されたことから、99年以前と2000年以降の数値は連続しない。

表 10 豚飼養頭数の推移

	(単位:千頭)				
区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
豚飼養頭数	421,234	433,191	418,504	439,895	462,913

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

注:第二次農業センサス(2006 年末現在)の結果に基づき、2000 年
までさかのぼってデータが大幅修正されたことから、99 年以前と
2000 年以降の数値は連続しない。

中国では、従来から農家の副業として2~5頭程度の豚を飼養し、有機肥料としての堆肥(たいひ)利用が行われている。近年は大規模な専業経営の養豚農場も都市近郊を中心に増加しているものの、このような副業経営が出荷頭数に占めるシェアは4分の3と、依然として豚肉生産において大きな地位を占めている。

豚の飼養頭数を地域別に見ると、中央平原地帯である四川省 5,325 万 8 千頭(全国シェア 11.5%)、河南省 4,462 万頭(同 9.6%)、湖南省 3,915 万頭(同 8.5%)、山東省 2,725 万 8 千頭(同 5.9%)、雲南省 2,669 万頭(同 5.8%)、湖北省 2,462 万 4 千頭(同 5.3%)、広東省 2,380 万 4 千頭(同 5.1%)などとなり、7省で全体の 51.7%を占めている。

②豚肉の生産動向

2008 年の豚肉生産量は、出荷頭数の増加などにより、前年を 7.8%上回る 4,620 万 5 千トンとなった。生産量は、90 年から 95 年にかけて 58%増加したが、近年は安定的に推移している。主要な生産地区の生産量を見ると、四川省 436 万 2 千トン(全国シェア 9.4%)、湖南省 370 万 2 千トン(同 8.0%)、河南省 367 万 1 千トン(同 7.9%)、山東省 321 万 3 千トン(同 7.0%)、湖北省 260 万 4 千トン(同 5.6%)、広東省 253 万 9 千トン(同 5.5%)、河北省 245 万 8 千トン(同 5.3%)などとなっている。

表 11 豚肉需給の推移

	(単位:千トン)				
区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	43,410	45,553	46,505	42,878	46,205
輸入量	155	41	90	198	430
輸出量	533	331	595	350	223
消費量	43,032	45,263	46,000	42,726	46,412

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」、USDA「China, Livestock and Products」(2010 年 3 月)

注:第二次全国農業センサス(2006 年末時点)の結果に基づき、生産量が 2000 年までさかのぼって大幅修正されたことから、99 年以前と 2000 年以後の生産量および消費量は連続しない。

2008 年の豚肉輸入量は、国内需要の増加を背景に、43 万トンと前年の 2.2 倍となった。主な輸入先は米国、カナダ、フランス、デンマーク、アイルランド、などとなり、主とし

て大都市の富裕層や高級ホテル、レストラン向けなどに供給されている。

2008年の豚肉輸出量は、22万3千トンと前年を36.3%下回った。主な輸出先は香港、マカオ、マレーシア、キルギスタン、ベトナムなど近隣諸国が中心となっている。

よる1人当たりの消費量は、農村部で同5.3%減12.65キログラムと減少しているものの、都市部においては同5.8%増の19.26キログラムと増加しており、農村部において価格高騰の影響が大きい結果となった。

③豚肉の価格動向

2008年の豚後肢肉の卸売価格は、前年比22.3%高の1キログラム当たり20.51元となった。中国国家统计局に

表 12 豚肉価格の推移

区分/年	(単位:元/kg)				
	2004	2005	2006	2007	2008
豚肉卸売価格	12.75	12.09	10.86	16.77	20.51

資料:中国農業部「中国農業発展報告」(菜籃子産品卸売価格)

注:豚後肢肉の卸売価格である。

(4)鶏肉産業

中国の養鶏は、70年末の農政改革を契機として大きく発展し、豚肉に次ぐ食肉として消費されるとともに、輸出産業としても位置付けられるようになった。FAOによると、2008年の中国の鶏肉生産量は1,606万9千トンと米国に次いで世

界第2位であり、そのシェアは、全世界の約17.5%を占めている。これには、国内のみならず、海外資本を導入したインテグレーションによる契約生産に基づき、海外の優良品種や生産技術の導入などを行った結果、生産性が向上したことが大きく寄与している。

表 13 家禽飼養羽数、出荷羽数の推移

区分/年	(単位:億羽)				
	2004	2005	2006	2007	2008
飼養羽数	51.6	53.3	48.4	50.2	52.8
出荷羽数	90.7	98.6	93.1	95.8	102.2

資料:中国農業部「中国農業年鑑」

注:第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが

大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

①鶏肉の生産動向

2008年の家禽(かきん)飼養羽数は、52億8千万羽と前年を5.2%上回った。養鶏産業はインテグレーションによる急成長から、98年以降供給過剰に陥り、価格が低迷したため、輸入鶏(ブロイラー)から、国内需要が高く中国人の好みに合う風味や歯ごたえのある鶏肉が生産できる在来鶏、いわゆる地鶏への生産転換が国内向けに行われている。在来鶏と輸入鶏との交配による品種改良も盛んに行われており、鶏肉生産の約半分がこの改良種により行われている。

2008年の鶏肉(ブロイラー)生産量は、前年比4.9%増の1,184万トンとなり、近年一貫して増加傾向で推移している。

②鶏肉の需給動向

鶏肉輸出は、2001年後半以降、家畜衛生や飼養管理という困難な問題に直面している。すなわち、鳥インフルエン

ザ、ニューカッスル病など家禽感染症の発生に加え、抗生物質の残留問題などにより、EUや日本などにおいて中国産鶏肉などの輸入一時停止措置が講じられた。このため、鶏肉輸出量は2002年以降減少を続けたが、2005年は上半期を中心に香港などへの輸出が回復基調となって増加に転じた。しかし、2005年下半期に一部地域で発生した鳥インフルエンザの影響などで、2006年は上半期の生産収益が大幅に減少して農家の飼養意欲が低下し、その後の需要の高まりにより下半期には生産が回復した。これにより、2007年は前年比11.2%増となったものの、2008年は需要が減退したことなどにより同20.4%減の28万5千トンとなった。主な輸出先は香港、マカオのほか、バーレーン、イラク、アゼルバイジャンなど中東を含む西アジアが中心となっているが、中国の鶏肉輸出量は、生産量の2.4%を占めるにすぎない。

表 14 鶏肉需給の推移

区分/年	(単位:千トン)				
	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	9,998	10,200	10,350	11,291	11,840
輸入量	223	219	343	482	399
輸出量	241	331	322	358	285
消費量	9,980	10,088	10,371	11,415	11,954

資料:USDA「China, Poultry and Products」(2010年3月)

注:ブロイラーの数値である。

③鶏肉の価格動向

鶏肉の生体卸売価格は、2005年下半期の鳥インフルエンザ発生の影響などで2006年上半期は下落を続けたが、堅調な鶏肉需要などに支えられ、5月になって底上げし、12月には年内最高を記録した。その後、豚肉価格の急騰に伴

い、中国では豚肉の代替効果が最も強いといわれる家禽肉の需要が増加したこと、飼料価格高騰の影響などから、2008年は前年比6.7%高の1キログラム当たり13.03元となった。また、2008年の鶏肉(丸どり)卸売価格は、同様に13.9%高の同12.37元となった。

表 15 鶏肉価格の推移

区分／年	(単位:元/kg)				
	2004	2005	2006	2007	2008
生体鶏卸売価格	9.50	9.50	8.62	12.21	13.03
丸どり卸売価格	8.43	8.63	8.35	10.86	12.37

資料:中国農業部「中国農業発展報告」(菜籃子産品卸売価格)